

第1回魚沼市総合計画審議会 会議録

日時	平成29年7月3日（月）18時55分～21時00分
場所	小出ボランティアセンター 1階 多目的室
出席者	星 麻衣、櫻井 伸一、三友 泰彦、井口 政秀、坂大 貞次、金子 一郎 中出 文平、中野 正喜、滝沢 茂、岸本 達行、佐藤 喜郎、大嶋 利明 目黒 正和、栴澤 一彦（14名） （欠席）米山 幸子、星 俊寛 事務局：富永企画政策課長、桑原企画政策室長、小島総合政策班係長、 五十嵐総合政策班係長、諸橋主任（5名）

（会議の要旨）

1. 開会（18:55）

（企画政策室長）

これより、第1回魚沼市総合計画審議会を開会します。本日は時節柄ご多用のところ、また週末からの大雨の対応などでお疲れのところご出席いただきまして誠にありがとうございます。私本日の司会進行を努めさせていただきます企画政策室の桑原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日のこの会議ですが、市を総合的に開発するための最上位計画として総合計画がありますが、この総合計画に関する事項に関して審議するために設置をするものであります。1年ほど前に皆様方に審議会委員をお願いしてから最初となる会議になりますが、この間会議を開催しなかった件についてお詫びを申し上げます。

なお、本日は初回ということもございまして佐藤市長も出席をしていますので会議に先立ちまして市長から皆様方にご挨拶を申し上げます。

2. 市長あいさつ

（市長）どうも皆様おぼんであります。お疲れのところ、第二次総合計画審議会にお集まりいただきまして大変ありがとうございます。今ほど司会からも話がありましたように、昨年6月24日にご就任いただいて初めての会議だそうでありますので、これまで会議がなされなかったということで、第1回目の会議だそうです。委員の皆様方からは委員としてのご委嘱に快くお引き受けいただきまして本当にありがとうございました。重ねて感謝申し上げます。

魚沼市の最上位計画であります総合計画につきましては、昨年度第二次総合計画（以下「二次総計」という）の前期基本計画がスタートしております。前期基本計画の5年間については「人口減少問題対策」や「地域資源の活用」、「将来に向けたまちづくりの推進」にかかる施策を重点施策として位置付けて取り組んできたところでもあります。その中でも特に当市においては、人口の減少が喫緊の課題でありまして、様々な影響が予想されているということになりますので、今後皆様方からも

運営についても従来にも増してメリハリのある施策の展開が必要だろうと思っています。いろいろな取組もスタートさせていただいていますが、実効性が出てくるのはちょっと先のことかなと思っています。いずれにしても、いろいろな対策を皆様方と協議させていただきながら取り組んでいかないと、この地域は埋没してしまうというような懸念にもなりますので、人が増えるということが地域の活力を産んでくるということになりますので、そういった視点でこれから市としても取組をさせていただこうと思います。委員の皆様方からそういった目線でいろいろなご議論をいただいてこの地域の方向性をしっかりと見出しただけであればありがたいと思っております。計画評価につきましても、市民目線で皆様方の力で評価をいただくということも大変重要ではないかと思っておりますので、外部委託で金太郎飴のような評価ではなく、市民目線で皆様方の力で評価いただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。二次総計が皆様方の手でしっかりと完成できるような形で取り組んでいただければありがたいと思ひます。

今日は今ほど司会の方から話がありましたように、昨日深夜から降り続いた雨がようやく終わったと思ったのですが、まだ山地の土砂災害も予想されるということで、災害警戒本部もまだ解消されておひません。今夜半から雨が降りそうだということもありまして、深夜に職員の招集もかけておひますので、私の方も対策のために会長の方を選任いただきましたら、議事に入る前に退席させていただくことをお許し願ひたいと思ひます。それから、今日から副市長も登庁しておひまして、副市長も登庁いきなり危機管理監としての任命もさせていただきましたので、災害対策本部の先頭を切つていただくということもあつて、本日は出席させていただきますが、この次は副市長からも出席いただく中でまた皆様方とよい形で取り組んでいければと思ひますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

いずれにしても昨年出た「住みよさランキング」の総合では、新潟県でワースト1ということにもなつておひますので、その解消に向けて皆様方からいろいろな知恵をいただければありがたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。開会にあたりまして、一言お願ひとご挨拶をさせていただきます。よろしくどうぞお願ひいたします。（※原文のまま。）

3. 委員及び事務局紹介

【次第裏面の順番に自己紹介】

4. 魚沼市総合計画審議会の概要について

【魚沼市総合計画審議会条例に基づき事務局説明】

※質疑なし

5. 会長及び副会長の選出について

（事務局）先ほどの審議会条例第5条第2項の規定により、会長及び副会長を互選していただくことにしている。つひては、どのような方法で選出したらいいか。

（委員）事務局案でいいのではないか。

(事務局) 今ほど事務局案という声がありました。事務局で腹案を用意しているので、ご紹介して承認いただくことでよろしいか。

(一同) はい。

(事務局) ありがとうございます。それでは事務局から腹案について説明させていただく。

(事務局) 会長に櫻井伸一様からお願いしたい。副会長には本日欠席の米山幸子様からお願いしたい。

(事務局) 只今、会長に櫻井様、副会長に米山様から就いていただく腹案を発表させていただいた。このことについて、皆様方からご承認いただく方の拍手をもって決定させていただきたい。

(一同) 拍手

(事務局) ありがとうございました。それでは会長、副会長を決定させていただいたので、櫻井会長は席を移っていただき、この後の議事進行をお願いしたい。なお、ここで大変恐縮だが、佐藤市長は冒頭の挨拶にもあったとおり災害警戒本部体制をとっている関係で退席させていただく。

(会長) 只今、会長に選任いただいた社会福祉協議会の会長をしている櫻井と申します。微力ですが、皆様方からご協力いただく中で責を全うしたいと思っているので、どうぞよろしくお願いします。審議会条例第6条の規定により、私が議長を務めさせていただくので、円滑な議事運営にご協力いただくようお願いします。なお、本日の会議について、終了時間を概ね8時半を目途に進めさせていただきます。

6. 議 事

(1) 第一次総合計画基本構想・後期基本計画の総括結果について【資料1】

【資料1に基づき事務局説明】

- ・中間検証時のデータに追加をして、10年間の総括を実施。

(会長) 只今の説明について、質問や意見がありましたら発言いただきたい。

(委員) 人口の減少が、当初45,000人とみていたわけだが、それが37,000人台までになっている事実に対する検証は、どういうところで見ればよいか。

(事務局) 市としても施策について一生懸命実施はしたが、それでもなお全国レベルで人口が減少している。それをどのように検証したかということ、先ほどの21施策について、全て「良好」であればもう少し減り幅を減らすことができたのではないかと分析しているし、それにはまだ遠く及ばないということから、そういった総括をさせていただいた。

(事務局) 補足させていただく。人口減少の検証でいうと、自然減少と社会減少があり、この分については、一昨年に策定した「魚沼市人口ビジョン」で分析をしている。次回の会議に持ってきてたい。自然減少は出生数が減ってくるのが主たる要因となっている。その原因はというと、若い人が結婚しないなどがあがっている。社会減少は流出人口が主たる要因であり、魚沼市が流入人口よりも流出人口が多いということがあがっている。その原因を分析しているが、主に高校を卒業した若い人が市外に出て行っている。それが大学あるいは専門学校を終わって魚沼市に戻

って来ないといったところが分析結果ではあがっている。自然減少と社会減少が組み合わさってなかなか思うようにいかない。人口の当初想定は45,000人で、前から減ることは想定されていたが、それを何とかこの計画で食い止めようというところを第一次総合計画（以下「一次総計」という）で示していたが、それができなかったということである。当初の見込みが甘すぎたということである。

（会長） よろしいか。

（委員） そこなんだが、施策がこれだけあって「概ね良好」というのが示されているが、聞きたかったのは桑原室長が言ったそれぞれの施策の中で見方が甘かったのかもしれないというその辺の判断が施策の中に、それぞれ21施策の中にもどこか一つ一つにあったのか、それともどちらかと言えば大きな3つの施策の中に大きな問題があったのかという分析まではしていないのか。

（事務局） 一つずつの施策では判断はしていなかった。二次総計では、それぞれの施策に目標値というものを設定するようにしたが、一次総計では先ほど3つ目標があったが、具体的な向かっていく数字がそれぞれの施策になかったということもあり、二次総計ではそれぞれの施策ごとに目標値を設定して、どの程度進捗したかわかるようにした。

（事務局） これも補足させていただく。一次総計の際には目標値は人口をそのまま当時の移行推移ということで設定した。当時は人口が減ることはわかっていたが、ここまで減るといふところまでは見通していなかった。それぞれの施策目標をかなり人口という部分に絞って立てていなかった。合併した当初ということもあり、合併した直後のソフトランディングを狙っていたということがある。文字通り一次総計だが、それ以前の、合併のときの合併ビジョンから引き継いだところが大半であったので、今ほどのようには人口に着目していなかった。この点については率直に反省事項と考える。

（委員） 今回は第一次の後期基本計画の総括の結果についての意見でいいか。

（事務局） はい。

（委員） 資料1のP14「地域内外の交流基盤の整備」が、前期のときに「良好」あるいは「概ね良好」、中期の評価が全て「概ね良好」となっている。今回の一番最後の評価について、「第1項 円滑な道路交通網の確保」と「第2項 公共交通の充実」とがいずれも「概ね良好」という評価になっている。私はこの地域の最大の課題は、冬期間通行止めになる国道道の延長がものすごく長い、あるいは地域内の公共交通の現実も全く整っていないという状況だが、更に言えば、私の立場ではここを訪れるお客様の二次交通が全く生きていない。浦佐駅に降りてそれからどうやって大湯温泉なり入広瀬なりに向かえばいいのか全く繋がっていない。こんな現状がある中で、「概ね良好」という評価をした原因、評価の基準は何なのか。

（事務局） 担当部署では4段階で評価をした場合に、評価理由により「概ね良好」と判断したものだと思う。基準としては、「概ね良好」については約7～8割程度、「良好」については更にその上というように区分しており、それによると「概ね良好」と担当部署で判断したものである。

（委員） 何と試してみようもない。

(事務局) P17 をご覧いただきたい。第1項の部分の担当課長総括を見ていただきたい。

今ほど委員が言った部分の回答にならないかもしれないが、あくまでも内部評価という部分でみたところの話だが、3行目に「市道の整備については・・・推進しました」と書いてある。したがって、国県道の部分まで踏み込んで書いておらず、あくまで市道の整備、それも新市建設計画から引きずって来ている実施計画に基づいてそれが整備できたかどうかという部分の判断だけである。したがって、この部分については、おそらく国県道も含めてのことだと思うが、そこまで踏み込んでいないのでご容赦願いたい。

(委員) わかった。

(会長) この件については報告であるので、他になければ次に進ませていただく。

(2) 第二次総合計画の概要について

【第二次総合計画概要版に基づき事務局説明】

(委員) 二次総計の冊子をもっている。私たちも参画させていただき編集されたのは承知しているが、この中でも当時指摘させてもらったが、人口減少問題について、国の公的機関だと思うが、社人研では平成27年(2015年)には17,000人になるという推計が出ている。これに対して先ほども説明があったが、魚沼市は26,000人を最低でもこの段階で維持するという二次総計ができあがっている。現在の状況をみると、当初計画よりもやはり減少率が多い。特に少子問題が大きく影響していると思うが、この対策が今の計画だけで、目標として掲げるのは結構だが、一次総計でもみられるように想定したもの以上の印象がある。これは全国的な傾向であることは否定しないが、いずれにしても、人口が自然減少と社会減少といったが、若者が関東へ出て行ってしまうという状況の中で、この施策というものを5年間で振返って見直すというよりも、早め早めにしていかなないと、計画に沿った評価はできるかもしれないが、実績で出てくるものはかなり違った形で「実は」ということになってしまうかもしれない。この辺の捉え方をどのように理解しているか考え方を聞きたい。

(事務局) 5年を待たずに早め早めに見直しをかけたかどうかということだが、市では毎年度見直しをしている。各課からヒアリングを行い、今まさに内部評価を実施しているところであるが、思ったような実績が上がらなければ、どこが原因でどう見直しをしていくかということで評価を実施して、改善なり拡大なりの方向性を示させていただいている。ただし、内部だけの評価だとどうしても気付かない点とか市民目線が足りないところがあると思う。そういった点が今後の対策とかやっていかなければならないと考えている。

(委員) 第6節「市民協働・自治体運営」について、よく読むと担当部署としては計画に沿って努力している点は評価できると思う。先ほど委員が話したように、基幹的なことは直っていないのに、目先のことはやっているから「良好」というような評価になってくると、本当にこの計画というのは結果としては絵に描いた餅になってしまうという懸念がある。その辺のことを、特に公共交通の問題については

今社会問題になっている。75 歳以上についてはもうハンドルの規制がかかるような議論が報道されている。果たしてそういう時代に合った形で、この魚沼にある交通の便の悪いところで生活が成り立つのか、その辺の懸念があるわけだから、県道だからいいとか、国道だから関係ないのだということはないと思う。魚沼市の中を走っている道路であれば、全てそれに目を向けた形の中でどうするのかという議論があったり、あるいはそういうものを見ながら評価していくという形に、問題点として評価をあげるべきだと思う。市道についてはいいが、全体的に見れば迷惑をかけているというような評価を普段からしていかないと、改善というのはなかなか進まないと思うので、その辺を市民の目線で見ただ中で、検討を早め早めにやっていくことが必要だと思う。回答はいいです。

(会長) 事務局からコメントをいただきたい。

(事務局) ありがとうございます。今まさに委員が言ったようなことが、この後皆様方からご確認いただく部分の話になると思う。これから市の初めてとっていい取組になると思うが、施策評価を外部評価に持っていくという組み合わせである。今まで試行的に事務事業評価の段階で外部評価を行ったことはあったが、施策評価を皆様方からいろいろ評価いただくという取組で、これは平成 28 年度に実施した施策について皆様方にご確認をいただきたいという内容をこれからお願いしたいと思っている。今日持参した資料はそこまでないが、次回の会議以降その辺についてじっくりとご確認いただくようお願いしたい。

(会長) この件についても報告であるので、一旦ここで打ち切らせていただき、次に移らせていただく。

(3) 行政評価における施策評価及び外部評価の実施について【資料 2】

【資料 2 に基づき事務局説明】

- ・今年度から施策評価を実施。
- ・外部評価を総合計画審議会からお願いしたい。

(委員) 最初の議題のところ、一次総計の総括をするときに人口が達成するしないというのをいわれて、その後施策のことを評価されていた。今回そういう意味では施策の評価はするが人口の推移のことはどうなんだろうということで、先ほど委員が言われたことはもっともだと思う。人口が社人研の推計よりは何らかの手当てをして人口が減らないようにしたいというのが、本来最大の評価項目になるはずだが、この概要版を見ても将来の推計人口が全く載っていない。総合計画本体には確か書いてある。ややこしいことに、去年安倍内閣が総合ビジョンとかいうのをやって地方創生ので、ここでもだいたい議論したが、人口をだいたい上方修正した。あれは夢物語なので絶対やめた方がいいとだいたいここでも言ったが、要するに社人研の推計は何も対策をしなくてもあのままになるという推計である。それに対して、先ほど言われたのは 50 年後に 18,000 人になるというのを、26,000 人にするということは、8,000 人何とか自然減を抑えるということで、亡くなる人は亡くなるので、自然減を減らすということは、子どもを増やすということである。そ

れから、社会減を減らすということは、外から入ってくる人が増えるとはなかなか考えられないので、外に出て行かないようにするとか、そういう施策の評価をどこかでしなければいけないはずだが、この概要版には人口のことは全く載っていないし、評価に対しては個別の施策を評価するのは構わないが、重点施策にも人口減少問題対策とあるし、将来に向けたまちづくりというのはやはり一定の人口がいないとできないので、それが目標だとすると、人口減少に対して少しでも寄与するのかどうかという評価はしなくていいのかが気になる。少なくとも先ほどの議論の中で、一次総計のときに委員は「概ね良好」はおかしいと言われたが、皆さんが気になっていたのは人口のところだと思う。要するに人口が、もっと減っているのではないかという部分を気にしているわけで、だったら何でそこを評価しないのか。戻って恐縮だが、資料1のP7に、そもそも人口が減っているのに、平成17年までの国勢調査を使って、その後減ることがわかっているのに45,000人という数字に鉛筆を舐めて上方修正しているのだから、これはそもそも間違いである。先ほど室長はソフトランディングするためと言っていたが、これ社人研の推計は一次総計の最初に書いてあると思う。それは嫌だから増やすと書いていて、たぶん社人研の推計はこの国勢調査と同じくらいだとすると、平成27年に37,000人でこれと同じくらいだと思う。とすると、45,000人を維持するという事は、実際には1,500人増やすと書いていたが、増やすのは無理だとしても、横ばいにするにしても3,000人分くらいの人口をどうやって確保するのかというのが、一次総計の中に施策として全く連環していないからこういうことになって、そうすると気楽に全ての施策が「概ね良好」と書けばいいということになってしまう。今度は、我々が評価しなければならないのだから、10年後に二次総計が終わって、次の人が見たときに、前の評価をしていた人は何を評価していたのかというときにみるのは、まずは人口である。人口の推移をみたときに既に二次総計ですら、相当鉛筆を舐めて上方修正している。絶対そんなに子どもは生まれないのに、すごく特殊合計出生率を上げたり、社会増減もありえない数字を設定している。それを総合計画で達成しなければならないのであれば、相当ドラスティックなことをやらなければならないので、そうすると、ここで書いてあるような施策をそのままやってただけで満たせるわけではなくて、10年後20年後に我々が責任をとれるかといえばとれない。とれないとしてもそこには問題があり、市役所の職員も10年後は関係ないと考えている方がほとんどだとすると、それではダメである。そうすると、人口をどういうふうに減らさないようにするかということで、日本の人口は減少しているのだから減るのは当たり前であると書いてあるが、日本の人口減少と同じかそれよりも魚沼市が少し大変であれば、少なくとも日本の人口の減少並みにしようとか、それよりはましにしようということを書かなければならないのであり、先ほどから聞いていると日本は人口減少しているのだから、これはしょうがないとしかいわれないが、そうではない。実際にはけっこう地方都市で、すごいことをやって人口を維持しているところがある。例えば、3人目の子どもが生まれたら100万円支給するとか、保育園無料とか、保育料無料とか、1人目から保育料無料というところもたくさんある。そういうようなことを

やれば、人口は維持できるかもしれないが、財政が破綻するかもしれないが。そういうところの按配もあって、本気で10年後の人口をどうしたいというのが、社人研の推計に何千人上積みしている。上積みといっても減るのを減らさない方向だと思うが、そうするならば、何をしなければならぬかということ、全部書いていないのと思う。だとすると我々はこれを評価できないと思う。例えば、道路が不便だから人がいなくなると思う。それも道路が便利だったら人が減らないのかといえそうではない。少なくとも不便なままよりは大丈夫だろうとか、そういうことを一つ一つ積み重ねて最大の目標が人口減少を社人研の推計よりはましにするというのであれば、ましにする目標も書いてあったと思うので、それをどう達成するかということ、施策評価のところ、どう入れるのかということ、もう少し考えてもらわないと総合計画の委員が16人もいて、行政がやらなければならないことはやっていますというのに対して、総合計画の委員だからといって評価するとちょっと大変だなと思う。総合計画の委員は10年後でも名簿に残ります。行政マンは10年前に担当が誰だったか名前は残らないので、市民の矢面に立つのは皆さんである。この世にいる限りは、ということもよく認識していた方がいいと思う。私は逃げてしまうのでそれでお終いだ。どこの行政施策を評価するのか、もう少しきちんと作った方がいいと思う。このままだと、ここにおられる方々がすごく苦勞しても何も反映されないのではないかと思います。

(会長) 中出先生から大変難しいお話をいただいたが、確かに前の会議でもそうだったが、人口は基本だということで議論をしてきたかと思う。これを踏まえて、今回できる部分をお願いしたい。

(事務局) ありがとうございます。当方も施策評価というものが初めてである。決して今やり始めたものが固定でいくというわけではなく、中出先生が言われたような部分も盛り込みながら改良していきたいと考えているので、そういう評価項目でも結構ですし、いろいろな面でこうしたらいいというような意見があればご指摘いただければ改善したい。

(委員) 誤解がないように申し上げますと、人口減少を食い止めるのが最大の目標にするかどうかは、それぞれ自治体が決めることで、人口が減ってもいいと思っている自治体も結構あると思う。人口減少した方がいろいろなことがやりやすくなると思っている自治体も実際にあるので。ただ、魚沼市は人口を減らしたくないといっているから鉛筆を舐めて相当上方修正しているのだから、二次総計もそうで、社人研のいっているとおりの人口にはなるけれども、その分充実した生活を送るんだというふうにして総合計画も、世の中にはいっぱいある。魚沼市はそれを選択しないで、人口を増やすということを選択するのであれば、やはり人口減少を食い止めるのが最大の目標だろうというふうに推察したので、そのように申し上げているので、ブータンの人のように心が豊かであればそれが一番だということの評価指標にした方がいいと思う場合もあると思う。ちゃんと総合計画の二次計画と合うように評価をしなければいけないということを申し上げているにすぎない。

(事務局) ありがとうございます。先ほど申し上げた一次総計の総括では、評価の検証の部分が「概ね良好」とか「良好」など、漠然としたものさしで見ていた部分もあったが、これからお願いしようとしている部分については、総合評価の中で観点評価として「施策成果の達成度」の観点、あるいは、「貢献度」の観点といったところも事務事業で見ながら、施策の方にどれだけ反映していくかという部分を、先ほど佐藤委員からも話があったように人口の部分も加味しながら、ご確認をいただきたいと、そういった作業をお願いしたいというのが、事務局からのお願いの部分である。確かに今回が初めての試みということもあり、他所の部分が参考になるという話ではないが、その辺も勉強させていただいた。それらを踏まえた中で、先ほど説明させていただいたように、そちらのシートを使って確認いただくという作業をお願いしようと思っているので、それについてここは違った方がいいのではいかというようなご意見があれば、シートもこの後修正をかけるべき部分は、来年に向けての話になると思うが、検討させていただきたいと思うので、ご協力お願いしたい。

(委員) 1、2質問したい。ここにおられる委員の方は、大半が以前からの委員の方なので、二次総計ができるときの経緯、今中出先生からもご指摘があったが、この計画では目指すべき姿が見えてこないということで、イコール評価をするにしても何をどれだけという評価をしにくいということから、どうなんだと思う。あるいはまた、自治法が変わった、今までは総花的でなければ総合計画の性格上まずい、そういう性格があったわけだが、自治法が変わって、むしろ今は総合計画によって10年後のわかりやすい目標を設定すべきであると何度も申し上げた。にもかかわらず、このような計画になってしまった。これは皆さんも半数くらいの方は経緯をご存知だと思う。これからこれを直すというわけにはいかないので、せつかく外部評価を取り入れるというのであれば、評価の数値目標というものをあえて設定して、極めてわかりやすい評価ができるようなそういったシートを作っただけであればと思う。しかも、時間もないので各施策ごとに数件ずつという話もあったが、わかりやすいものがある。そういうものを選んでほしいというのが1点目。もう1つが、皆さんの内部評価について、事務事業評価の細かいことで恐縮であるが、副市長が主宰してと書いてあるが、どの課も重要でない課はないと思うが、これをパッと見てなぜ土木課がないのか非常に疑問である。少なくとも6つの体系の中にある「生活基盤」という中にある以上は、おそらく土木課の管轄ではないかと思うのに、土木課長が抜けている。なぜこのようなことをするのかと。別に全員でなければできないという話ではもちろんないが、直接関わるような課長が抜けているというのは、何でそうなっているのか説明していただきたいと思う。いずれにしても、課長も室長もこれを作ったときの課長でも室長でもないわけなので、そういった今までの経緯といっても認識できないかもしれないが、そういうことです。また、今中出先生が最も重要な人口減少の問題を言われたが、観光の立場からするとむしろ交流人口の拡大を図ることによって、人口減少の社会を少し良い方向にもっていこうという考え方を持っているので、いろいろな見方があると思うがそんなことも感じている。

(事務局) 行政評価会議に土木課長が入っていないという理由を説明すると、確かに私もそのときにいなかったのではっきりしたことはいえないが、この行政評価会議であるが、事業を持っている全員の課長が揃ってやればいいのだが、自分の課の事業を自分の課長が評価するというのは、まさに手前味噌になるということで、事業のある課が全て入っているわけではない。客観的に他の課の課長が事業をみることにしており、したがって事業課といっても商工観光課と農林課などが中心となっているので、これはそういったところであるのでご了解いただきたい。それから、指標の方だが、総合計画の本編の資料編 P70 に成果指標というものを載せている。これは策定時にいろいろと、将来の目標・現状を踏まえた中での目標という部分で立てたものである。中出先生が言われるように、人口という部分から見て全てこれが人口に結びついて何人というところを表しているものではなく、例えば、道路網の整備であれば成果指標は「道路の整備延長」、これが現状値が0mとした場合に、計画期間終了後には何m改良が進むのかといったことを、それぞれの施策ごとに目標を立てているところである。したがって、施策目標についてはこちらを参考にご確認いただきたい。

(会長) 他にいかがか。

(委員) 委員が先ほどからずっと言われているように、先回私どもでいろいろ話を聞かせていただいたが、こんなものかと言っては失礼かもしれないが、消化不良みたいな形で終わった。それがこの次にどういう形で現れてくるのか興味があったので、委員を引き受けさせていただいている。ほとんど変わらないような形の中で今確かに人口の問題もそうだし、私の勝手な考え方でいうと、本当にこれといった施策がとれて人口対策になるとは思えない。現実はずっと人口が地域の中で減っているし、こうしてコミュニティ協議会（以下「コミ協」という）のメンバーが数を増やしていただいているし、だから、この評価をしたものがただ単純に評価をするだけで、これで終わるのであれば、何となくやっても次に繋がるなどか夢が持てるようなことではない。それだったら、今の状態でいって、市の職員の皆さん方もある資料を見ると限界にきているとある。限界になっているのに、こういうような評価だけしても、それをどこに目先をもっていくのか、地域の住民の力による住民の自治みたいなことがいろいろ聞こえてくるが、その辺が例えばコミ協に対しての認識とか、今コミ協のことも書かれているが、ほとんどずれている。我々の意識と。この前も総会があったが、そのときにまちづくり室がきたので、集まって本当に本気で市長を入れて話し合いができるような場がほしいというようなことを言ったが、まったく消化不良で本当におもしろくないという話が出た。これがそういう形で人口が減ったり、地域の中の運営が難しいのに、じゃあ皆さんの力だけでやれるのか、やれなかったら住民の皆さんにどういう形をお願いをして、コミ協を役に立つような形に育てていくとか、きちっとした目安がまったくない。ただこれを見ても、12のコミ協ができてあと2つ増えました、21団体まで作りたいというだけでは、全然施策にならない。これをせつかく評価しても、これが次に繋がってこなければ、私たちはここに来て何をやっているのかということになる。去年も本当にそうだった。その辺のところを今後考えてい

って、皆さんの目的とは外れるかもしれないが、是非そういうものに繋げる施策
というか、手を打っていただけたらありがたい。これは意見だが、お願いしたい。

(会長) どうだろうか。

(事務局) 貴重なご意見をありがとうございます。この場で気の利いた答弁もできなく
て申し訳ないが、先ほども話があったとおり、メリハリのある計画という部分を
これから次に繋げていく必要があるだろうということは事務局としても十分考
えている。確かに一次総計の中では総花的だったかもしれない。それが満足とい
う形にはいかなかったと思うが、二次総計ではややメリハリをつけたところである。
今後、そのメリハリをつけるという部分の度合いが、より強くしていかなければ
この問題というのが解決できないのではないかと感じているところであるので、
先ほど委員、今ほどの委員からの話も十分踏まえた中で、これも改良を続けなが
らという話になるが、繋げていく必要があると思っている。私どももこれで決し
て終わりだと考えていないので、その点だけご了解願いたい。

(事務局) 今のコミ協のことにに関してだけお話させていただくと、合併の協議をしてい
るときに、町場では隣の人も話さないようなところがあって、コミュニティがま
ったく無いというようなこともあって、ではどうするのかという話をする中で、
コミ協を作ろうという話がまとまって、その後何年か経ってまちづくり基本条例
ができたりして、地域で手と手を取り合って何とかしていこうなんて話をしたが、
今市内に14コミ協があるが、もしかしたら中にはコミ協を作ること自体が目的に
なって、何のために協議会を作ったのかが、はっきりしていないところがあるの
かもしれない。もしかしたら、そういうところを感じたりご覧になって、先ほど
の話になったのだと思う。先日もあったがコミ協の連絡協議会等で前回はま
ったく意見交換の場がなくて、お叱りを受けたようだが、今回はそういうところをメ
インにして運営しようという約束をさせていただいたと聞いている。そういうと
ころの情報公開をしながら、コミ協というのは何をやるんだというところを話し
合ってもらいながら、全部のコミ協が良い組織になっていけばいいと思う。総合
計画とどれほど関係がある回答ができたかわからないが、そんなことで次回以降
はやらせていただきたいと思うので、ありがたい意見として承る。

(委員) コミ協の位置づけというのがはっきりしていない。まちづくり室の方でも本当に
市としてどのような形でコミ協を位置付けて、どんな形にもっていきたいんだと
いうのを、はっきりしたものを出してくれと、南魚沼市でも他のところでも条例
を作って、きちんと体制を作っている。これは私どもの地域だけではないが、結
局それに対しての認識がはっきりしていない。だから二重行政だとか、そんなの
いらないとか、それをまた地域の区長さんとかに言われながら、我々も実際やっ
てはいるのだが。だから、その辺を私どもからすれば、ただ数だけ作ればいいと
いうことではなくて、もっときちんとした条例を作って、ちゃんとした事務局体
制とかそういうものを作ってもらわなければ、これ何年やっても進まないと思
う。さっき言ったことの中では、本当にスピード感をもって進むかということにな
ると、これ何年経っても大した進歩はしてこないのではないかという気がして、そ
のことを考えていると段々腹ただしくなってくる。是非それをきちんとした条例

を作っていて、市としてはこういう位置づけでいくのだと。だから、地域の皆さんも理解してもらって、一緒になって地域づくりに参加してくださいというようなことをやってほしい。それを自主的に我々コミ協単体でやれというのはおかしいと思う。

(会長) 時間も押してきたので、他にないか。

(委員) 2つお願いしたい。1つは、資料2のP14、15の例にあるような道路網の整備の結果、公共事業の評価について説明いただいたような総合評価の「拡充」「現状維持」「改善」「縮小」の4つの見方から見ていくというのは、なかなかどういった結論を出していいのかやってみると難しいと思う。公共事業のように整備をしていくというのは、程度の差はあれ推進するというようなものを、こういう形の総合評価にかけることが単純に可能なのかという部分があるので、そここのところは今事務局の方で考えているものがあるかどうか聞きたい。

2点目は、私どもに求められている評価の結論というのは、「この施策については拡充すべきである」とか、「この4つの観点からこの施策をどうすべきだというのを評価してください」ということを求められているということによいか。

(事務局) 1点目は、総合評価が4つの評価では難しいのではないかと、どうしても本来市でやらなければならない業務もあるので、それは評価にそぐわないのではないかと、ということだったと思うが、それについては正直事務局でも今回初めてということもあり、同様の意見もあった。それであれば、どのように考えているかという、今言えるのは施策の達成度と貢献度、施策の指標というものを設定しているので、その辺の進み具合を見ながら、今後事業を拡充しなければならないのであれば「拡充」になるし、「現状維持」というのはこのままでいいという意味ではなく、当然成果を上げるために頑張っていたきたいというものである。単純に4段階とはいうものの、評価の理由のところではいろいろと付け加えて今後お願いしたいというのを8番で二次評価では考えている。皆さんにお願いする評価については、このシートのおりではなく、「総合評価」と「今後の方向性」の二つについて評価していただきたいと考えている。その「総合評価」の観点についても、面倒ではあるが担当部署からヒアリングも行うので、聞き取りやシートに記載の情報などで読み取っていただきたいと思う。

(事務局) 付け加えて、P14、15の事例がハード事業が中心となる施策だったので、中野委員の言われるような話になったと思う。確かにハード事業が中心というような施策だと、事業単体で見ればよく測定である「B/C（ビーバイシー）」という需要とコストからもってくる評価というものを国でも県でもやっていると思うが、それだけで見るということもあるかと思うが、施策をご覧いただくとハード事業だけで構成している事業よりもむしろソフト事業で構成している施策の方がかなり多いような状況になっている。そういったものが、なかなか観測方法というのが確立されていないというのがあって、P14、15では今ほど言ったように、これはこれで一つの例だが、ソフト事業が中心となっている施策とは少し違うということでご理解いただきたい。私どももどういった方法がいいのか手探り状態であり、今回委員の皆様方から評価をお引き受けいただけるというのであれば、今

年の結果をもって来年違った方向に改善していきたいと考えているので、そういった目線でご覧いただき、合わせてご指導いただければ大変ありがたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

(委員) 今ほどの委員からの話を受けてだが、私たちコミ協ではそれぞれ“地元の夢”というのがある。ハード面といえばハード面になるが、例えば自分の地域の後ろ側に抜けていく道があるのが普通だが、無いのが湯之谷と入広瀬である。この二つの地域で後ろ側に抜けていく道があればいいという夢がある。とてもハード面としてこういうところにまだ載るようなものでないということは百も承知であるが、そういうのが県の方からや国の方からの施策を得て、可能となったときには、この評価シートの方にその項目を載せることができるのか。また、そういうことにならないうちは夢は夢であり、施策を評価するということに載ってこないと思うが、そういう夢に対する発言の場とか、情報の収集の場とかというのがあるのかどうか、そこを聞かせてほしい。

(会長) これは難しいようなので、コメントくらいでお願いしたい。

(事務局) 今回の評価については、そういうことを書き込む場所はない。今言われたことについては、企画政策室でも共通の夢として実現に向けて動いているところである。ただそれが、20年先か50年先になるかわからないが、同じ目標に向かって動いているというのは確かなので、その辺認識いただいて、時期が来たらこういうところに載ってくるとご理解いただきたい。

(会長) ではこの辺で、質疑の方は打ち切らせていただきたいがよろしいか。

(一同) はい。

(会長) それでは、整理して皆様におはかりしたいと思う。まず1点目、当審議会として外部評価を事務局案に基づいて行っていくということについては、了承してよろしいか。

(一同) 意義なし。

(会長) ありがとうございます。次にやり方ではありますが、二年くらい前に試行という形だった。今回はできれば本格実施を行って、公表も行っていきたいという事務局の考えであるが、この事務局の案に基づいて私どもは作業を進めていくということによろしいか。

(一同) 意義なし。

(会長) ありがとうございます。それでは、事務局から提案のあった形に則って、これから進めさせていただきたいと思いますが、先ほどからお話のあったとおり、委員のわかりやすい書式、評価しやすい書式について検討をお願いしたい。

7. その他

(会長) 事務局で何かあればお願いしたい。

(事務局) 時間がない中で申し訳ないが、1点だけ用意しているものがある。

【資料3に基づき事務局説明】

- ・ 外部評価の手順について説明。2班に分けて評価を実施。6分野から各1施策を選定し、計6施策を評価。1施策当たり1時間を予定しており、2日間実施予定。後日

日程調整を行う。

(会長) 今説明があったが、これについて質疑はあるか。よろしいか。やりながらというところもあろうかと思う。それではせっかくの機会なので、委員の皆様から何かあるか。

(委員) 会議の内容ではないが、大変資料を多くいただく。皆様どのように保管されているかわからないが、私は綴じている。薄いものであれば自宅のパンチで穴をあけられるが、厚いのは穴があけにくいので、できれば全部パンチしていただければ保管しやすいのでお願いしたい。

(事務局) 大変申し訳ない。以後こちらの方で配慮させていただく。

(会長) 前日も議事録を全員に送付していたが、今回もそのようにしていただけるのか。

(事務局) そのようにさせていただきます。

(会長) 他にいかがか。なければ、これをもって本日の案件全てをご審議いただいたので、議長の任を降ろさせていただきます。この後の進行については事務局にお返しする。

(事務局) 会長、進行お疲れ様でした。ありがとうございました。

8. 次回日程について

(事務局) 外部評価に向けて皆様に日程調整の連絡票を送らせていただく。なるべく皆様が集まれる日を設定させていただきたい。予定としては、誠に勝手ではあるが、できれば今月末くらいに1回、8月上旬に1回と考えているが、皆様の日程調整次第で変更となるので、よろしくお願ひしたい。

9. 閉会 (21:00)

(事務局) 皆様大変遅くまで申し訳ありませんでした。時間がないということでお話になりたいことを飲み込んでしまわれた方もたくさんいたのではないかとと思いますが、重ね重ね申し訳ないと思っています。議事の最初のところで委員が冬季道の話ですが、二次交通、アクセスの話だったと思いますが、それを聞いて少しドキッとしました。二次総計は、まだまだ総花的であるとは思いますが、もしかしたら目標の設定が高いところはないとか狭いというのがあったのかもしれない。この計画は基本構想が10年、基本計画が5年、実施計画が3年ごとの毎年ローリングということで、まだまだ少しは変更できる可能性もなくはないので、私なりに勉強したいと思っています。大変貴重なご意見だったと思います。最後にこの評価というのが、もしかして次年度の予算に関連があるとすると、皆様方の評価というのが市の財政に影響してくるわけですので、皆様方から市民目線で厳しいチェックをしていただければありがたいと思います。本当に今日は遅くまで申し訳ありませんでした。ありがとうございました。

(事務局) それでは、以上をもちまして、第1回魚沼市総合計画審議会を閉じさせていただきます。大変どうもお疲れ様でした。

以上